

令和6年度 国費高校生留学促進事業 プログラム計画書 (記入例)

- 1 学校名 (都道府県名)
東京都立文部科学高等学校 (東京都)
- 2 プログラム担当者 (職・氏名、連絡先電話番号)
教諭・文科太郎 TEL03-5253-4111
- 3 派遣先国 (複数ある場合は全て記入する)
オーストラリア
- 4 派遣人数 (生徒・引率教員)
21人 (生徒20人・引率教員1人)
- 5 派遣期間 (スケジュールは11として添付する)
〇〇年7月23日 (日) ~ 8月20日 (日) (29日間)
- 6 プログラムに含まれる活動 (複数回答可)
- 語学研修
 - 授業参加
 - スポーツ活動
 - 芸術活動・文化体験活動
 - インターンシップ
 - ボランティア活動
 - その他 ()

7 プログラムの内容

(1) 目的・達成目標

- ① 親元を離れた海外での生活・学習を通し、授業で身に付けた英語を実際に使用することにより、英語運用能力を向上させる。
- ② 現地高等学校への体験入学や現地校訪問等により、同世代の高校生らと交流し、異文化理解を深める。
- ③ 各自のテーマに基づき、現地でリサーチ (現地の行政機関、研究機関の訪問等を含む) を行い、プレゼン発表を行う。
- ④ 将来、国際社会の一員として、我が国と関わりの深い派遣先国との関係の在り方を考察する。

(2) 派遣前の学習内容

- ① 全体説明 2 h ○月頃
 - ・派遣プログラムの概要についての説明
- ② 目標・課題設定 4 h ○月頃
- ③ 派遣先国・地域研究 6 h ○月頃
 - ・地理、歴史、文化等をテーマに調べ学習を行い、全体でプレゼン
 - ・学校が所在する（公財）〇〇市国際交流協会から派遣先国出身のC I R（国際交流員）を招き、交流
- ④ 生活面での事前学習 2 h ○月頃
 - ・現地生活の心構え・諸注意など

（3）現地での語学力向上のための取組

- ① 現地姉妹校において、英語研修（3日×2h）を受ける。
- ② 現地姉妹校へ体験入学し、英語による授業（3日×2h）を受ける。
- ③ 各自のテーマに基づき、現地でリサーチ（現地の行政機関、研究機関の訪問等を含む）を行い、プレゼン発表を行う。
- ④ 現地の大学等を訪問して交流し、異文化理解を深める。
- ⑤ 現地の一般家庭にホームステイさせ、日常的に英語で交流させる。

（4）現地高校生等との交流計画

- ① 現地高校生から歓迎会、送別会を受ける。（歓迎会3日目、送別会27日目）4h
- ② 現地の日本語学科を置く大学を訪問し、交流する。（24日目）8h
- ③ 現地の日本語学習に熱心な小学校を訪問し、交流する。（25日目）8h
- ④ 現地高校生と一緒に博物館、美術館を視察する。（26日目）8h

8 実施体制

（1）実施に向けての生徒・保護者向け説明会、業者等との打合せの実施計画

- ① 旅行業者の選定 ○月頃
- ② 派遣生の選考・内定 ○月頃
- ③ 生徒・保護者向け説明会開催（第1回） ○月頃
- ④ 研修旅行のしおり等作成 ○月頃
- ⑤ 生徒・保護者向け説明会開催（第2回） ○月頃

（2）現地での支援体制

- ① 引率教員は、派遣生と一緒に授業を受け、必要な学習指導（補講）を定期的に行う。
- ② 引率教員は、生活面の指導を含め、派遣生の体調管理・メンタルヘルス等を随時実施する。
- ③ 引率教員は、生徒のリサーチ活動が円滑に進むよう、訪問先との連携を密に行う。

(3) 危機管理体制

※現地緊急連絡網をA4版(タテ)で作成すること(任意様式)

- ① 健康診断の実施
 - ・ 出発前に学校医による健康診断を実施する。
 - ・ 必要に応じ、予防接種・抗体確認の調査を行う。
 - ・ 現地医療機関への情報提供を目的に英文による健診結果を作成し、派遣時に手交する。
- ② 現地緊急連絡網の作成(別紙)
- ③ 派遣先国等の安全状況等の把握・確認
 - ・ 現地担当者を含む旅行業者と連携し、安全状況等を把握する。
- ④ 感染症対策について
 - ・ 渡航前の派遣先・日本国内における最新情報の把握
 - ・ 派遣先の感染状況や感染防止策、感染した場合の現地の医療体制の確認
 - ・ 帰国時の防疫措置の把握、帰国ルートの確保
- ⑤ その他安全のための準備
 - ・ 日本大使館との連携、緊急医療体制の整備、防火・避難体制の整備など

(4) プログラム実施に携わる教職員の国際経験

- ① 引率教員は、学生時代○年間の留学経験があり、英検○級、TOEFL○点、TOEIC○点の成績を有している。
- ② 学校として、当該派遣プログラムを過去5年間継続して実施しており、いずれも当該教員が引率している。

9 フォローアップ・成果検証の実施

(1) 派遣生の派遣前と派遣後の効果測定や意識の変化の把握方法

- 派遣前と後で、外部試験(TOEFL、英検準2級)を受験させるとともに進路に関する意識調査を実施する。
- 英語スピーチコンテスト、英語ディベート大会等の各種大会に参加させる。

(2) 派遣生と一般の生徒との比較調査、自己点検等の方法

- 上記外部試験及び意識調査を一般の生徒にも実施して、比較分析する。

(3) オンラインによる事前事後研修等を組み合わせる等、より充実した留学プログラムを行うための工夫

- 交流相手校である△△高等学校(オーストラリア)と、時差にも配慮しつつ、事前に、オンラインによる互いの国の学校紹介等を行うことで英語力と留学への意識を高めるとともに、帰国後にも、オンラインにより両国の生徒で構成されたチームでの課題学習や成果発表を行うことで、英語力の継続や、言語の課題を超えた課題解決能力の向上に努める。

(4) 実施報告会・シンポジウム等による校内はじめ域内学校等への発信方法

① 感想・報告文の作成 3h 〇月頃

② 成果発表会 5h 〇月頃

・校内の文化的行事及び都道府県主催の留学フェアにおいて体験談を報告する。

(5) 文部科学省が実施する各種調査への協力体制

※体制図をA4版(タテ)で作成すること(任意様式)

10 事業実施に当たっての留意事項

(1) 各都道府県における支援金の額の上積みや、高校生の留学促進及び子供たちの国際的視野の涵養に関する独自の取組の状況

※ 都道府県独自の高校生留学等支援事業一覧(様式1-3)を提出するとともに、都道府県等における支援金の額の上積み等について、該当があれば、関係書類(様式任意)の上、概要を下欄に記載。

(都道府県において記載をお願いします。各学校で記載の必要はありません。)

○ ●●県においては、国費高校生留学支援事業に採択された海外研修プログラムに対して、一人当たり10万円の上積み支援を行っている。(別添「○○○○要領」参照)

○ ●●県においては、毎年度、県で独自にオーストラリアへの海外研修プログラムを実施。

(2019年度実績)

・日程:8月1日~8月14日 ・研修先:オーストラリア(シドニー)

・研修内容:語学研修・ボランティア活動等 ・派遣人数:20人 ・支援金額:一人当たり20万円

(別添「2019年度○○○○プログラム実施要領」、「2019年度○○○○プログラム報告書」参照)

(2) 支援対象の派遣生の選定の際の、各学校における経済的な必要性への特段の配慮

※ 支援対象の派遣生の選定要件が記載されている資料(都道府県における当該留学プログラムの募集要項等)を提出の上、具体的な考え方や選定方法について下欄に記載。

○ ▲▲▲高等学校においては、当該海外研修プログラムの派遣生のうち支援対象に関して、高等学校等就学支援金の支給対象者と限定することで、経済的な必要性を考慮している。

(別添「▲▲▲高等学校○○○○プログラム実施要領」参照)

11 派遣スケジュール(行程表)

※A4版(タテ)で作成すること(任意様式)

12 派遣経費（生徒1人当たり）

〇〇〇, 〇〇〇円

（内訳）

費 目	金 額（円）	備 考
国際航空運賃（1往復分）		
自宅等から出国する国際空港までの国内交通運賃（1往復分）		
受入先国の国際空港から派遣先までの国内交通運賃（1往復分）		
空港税、燃油サーチャージ、出国手続諸費用		
査証（ビザ）・旅券（パスポート）取得手続諸費用		
外国の正規の後期中等教育機関等に納入する研修費、施設利用費等		
海外傷害保険料		
寮費、ホームステイの場合、ホストファミリーに支払う費用		
上記の一部又は全部を含むプログラム参加費		
支援対象経費 合計		
支援対象外経費 合計		
総 合 計		

※支援対象経費について、該当する費目にのみ金額を記入してください。

※支援対象外経費について、欄が足りない場合には、適宜追加してください。

派遣スケジュール・行程表（例）

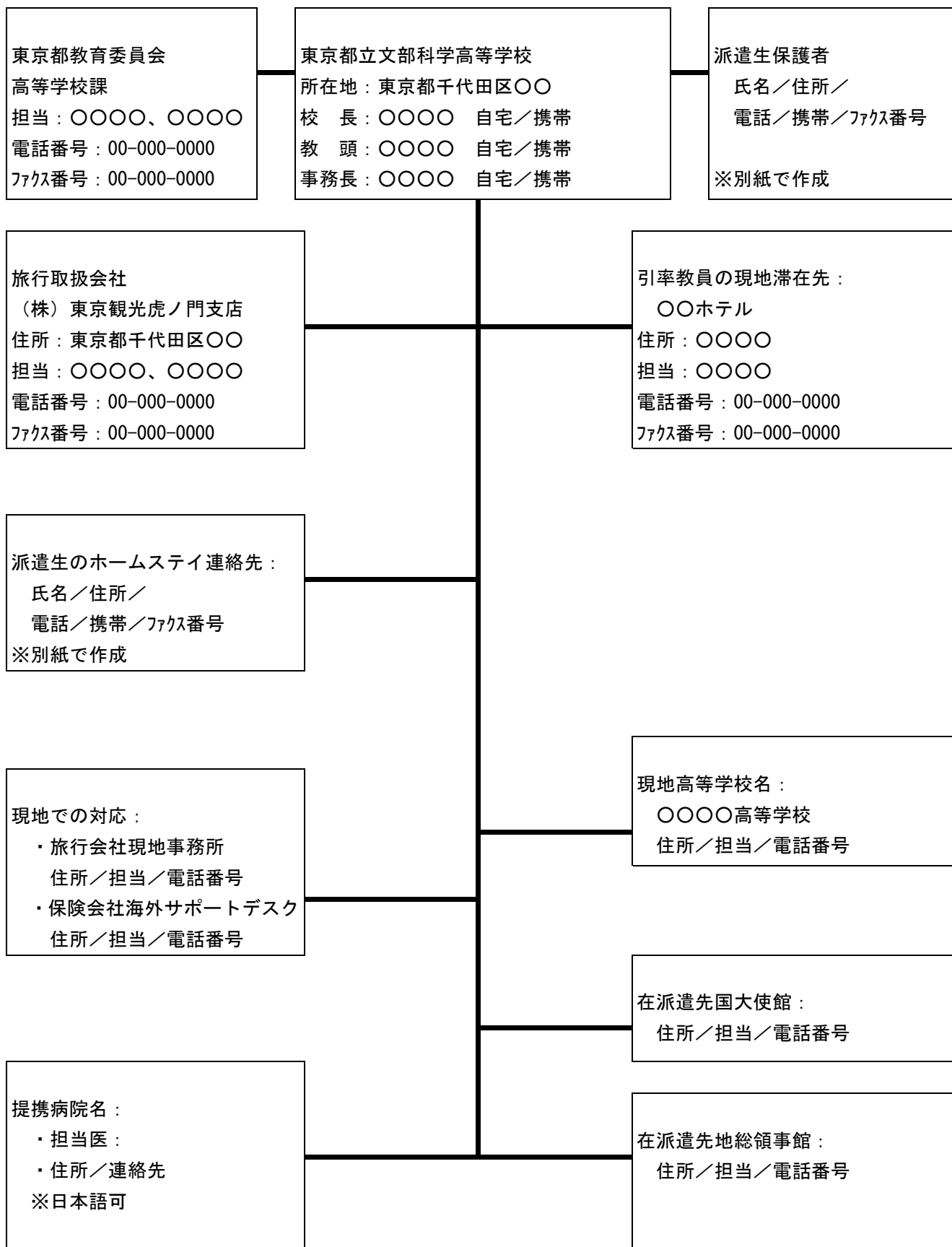
1. 日 程： 7月23日～8月20日（29日間。うち海外滞在27日間、海外学習20日間）

2. 場 所： オーストラリア（滞在都市●●●）

日数	日 程	都市名等	交通機関	内 容
1	7月23日 (日)	〇〇駅 □□駅 △△空港	のぞみ〇〇号 ×××□□号 JAL123便	〇〇駅集合。新幹線で□□へ ×××□□号に乗り換え (午後) △△空港発
2	24日(月)	●●●	専用バス	専用バスで研修場所へ移動。ホストファミリーと対面
3	25日(火)	●●●		(午前) オリエンテーション (午後) 歓迎会
4	26日(水)	●●●		(午前) 英語研修 (午後) 高校授業体験
5	27日(木)	●●●		(午前) 英語研修 (午後) 高校授業体験
6	28日(金)	●●●		(午前) 英語研修 (午後) 高校授業体験
7 8	29・30日 (土日)	●●●		自由行動 (ホストファミリーと一緒に過ごす)
9	31日(月)	●●●		学校又は個人が設定したテーマに基づき、 現地リサーチ（現地行政機関や研究機関等の 訪問等を含む）を行い、リサーチ指導やプレ ゼン指導を受ける
10	1日(火)	●●●		
11	2日(水)	●●●		
12	3日(木)	●●●		
13	4日(金)	●●●		
14 15	5・6日 (土日)	●●●		自由行動 (ホストファミリーと一緒に過ごす)

日数	日 程	都市名等	交通機関	内 容
16	8月7日 (月)	●●●		リサーチ及びまとめ
17	8日(火)	●●●		
18	9日(水)	●●●		
19	10日(木)	●●●		発表準備
20	11日(金)	●●●		プレゼンテーション発表
21 22	12・13日 (土日)	●●●		自由行動 (ホストファミリーと一緒に過ごす)
23	14日(月)	●●●		交流のための事前学習・準備
24	15日(火)	●●●		現地の大学を訪問して交流
25	16日(水)	●●●		現地の小学校を訪問して交流
26	17日(木)	●●●		現地高校生と博物館・美術館鑑賞
27	18日(金)	●●●		(午前) 帰国準備 (午後) 送別会
28	19日(土)	●●●		(午前) ●●空港発
29	20日(日)	△△空港 □□駅 ○○駅	JAL321 便 ×××□□号 のぞみ○○号	(午前) △△空港着 ×××□□号に乗り換え □□駅から新幹線で○○へ移動。解散

現地緊急連絡網（例）



国際交流推進委員会（例）

